

1 日本はどんな国

教科書 p.10～11 ほか

本時の位置 (3/4)

世界の国々を調べる

子どもの追究活動	指導の工夫と教師の支援
<p>日本のまわりにある国を調べ、白地図に書き込む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大韓民国は、韓国とも言うね。 ・中華人民共和国は、オリンピックのあった国だ。中華料理は、よく食べるね。 ・朝鮮民主主義人民共和国は、テレビのニュースでは、北朝鮮と言っていたよ。 ・南のフィリピンやインドネシアは、日本と同じ島国だね。 ・海をはさんで、アメリカやカナダにもつながっているんだ。 ・多くの国があるね。それぞれの国に国旗があり、オリンピックの入場の時に持っていたね。 	<p>教科書 p.10「日本の位置とまわりの国々」に書かれている国について、知っていることや聞いたことがあることなどについて話し合うが、その際、国名の正しい読み方を確認する。</p> <p>正式な国名がわかるようにするとともに、どの国にも国旗があることや国旗を大切にしていることを、オリンピックでの使用例などあげて理解させるようにしたい。</p> <p>主な国については、近隣の諸国を含めてユーラシア大陸やそのまわりに位置する国々の中から10か国程度、北アメリカ大陸、オーストリアなどの大陸やその周りに位置する国々の中からそれぞれ2か国程度取り上げる。</p>
<p>白地図に、国名を書き込む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな国...ロシア連邦、中華人民共和国 ・小さな国...大韓民国、朝鮮民主主義人民共和国 ・島国...フィリピン、インドネシア 	<p>白地図に、日本のまわりの国々の名前を書かせるが、ここでは、難しい漢字は使わずに仮名でもよいが、正式国名を書かせる。</p> <p>国名などは引き出し線などを使い、国の位置を正確にとらえることができるように書かせる。</p>
<p>この地図にある国について話し合い、白地図に書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インド料理の店に行ったことがあるよ。 ・イギリス、フランス、ドイツなど、ヨーロッパにも有名な国があるね。 ・スイスは、アルプスがあるんだね。 	<p>国名は、地図帳などを参考に調べさせるようにする。</p> <p>地図帳の中のその国の特徴的なものをあらわした写真や、子どもが興味をもつ写真を用意し、それについて話し合わせ、国名を白地図に書かせるのもよい。</p>
<p>そのほかの国を調べ、白地図に書き込む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブラジルやアルゼンチンはサッカーが強いね。 ・ケニアには、動物が多くいる公園があるらしいよ。 ・次のサッカーのワールドカップは、南アフリカで開かれるらしいよ。 	<p>世界の白地図を配布する。地図帳の地図を使い、教科書 p.10の「日本の位置とまわりの国々」で出なかった国の名前を、白地図に書かせる。</p> <p>アフリカ大陸と南アメリカ大陸については、2か国程度とりあげる。</p>

本時のねらい

地図帳や地球儀を使うことにより、世界の主な国の名称と位置を調べ、白地図に書き表すことができる

評価の視点

評価基準の具体例

【知識・理解】

世界の主な国の名称がわかり、その位置を白地図に書くことができる。

評価の対象と方法

地図帳や地球儀から調べた世界の主な国について、その名称と位置が正しく白地図に書き込まれているかをもとに評価する。

子どもへの指導の手だて

「努力を要する」状況と判断した子どもへ

世界の国の名前や地理的位置を理解することのできない子どもには、地図帳にある各国の様子をあらわした写真を見せ、国の名前をとらえさせる。そして、地図帳で確かめ、国名をマーカーで印をつけさせる。さらに、白地図のどこにあたるかを一緒に調べ、記入させるなど細やかな対応をする。

「十分満足できる」状況と判断した子どもへ

世界の国の名前や地理的位置を理解することができた子どもには、さらに多くの国について調べたり、また、各国の国旗に目をつけさせ、どのような意味をもっているのかさらに調べさせたりしていく。

資料の解説

日本の位置とまわりの国々

教科書 p.10 の地図は、ランベルト正積方位図法で描かれている。この図法は、中心から離れるにつれて経線方向の距離を縮める補正により、面積を正しく表現できる。

各国の国旗

教科書にある国以外の国旗は、地図帳などを活用して、調べるようにしたい。なお、各国の国旗がどのような意味を表しているのか調べる活動を発展的な学習として取り扱うことも考えられる。

アメリカ合衆国...13本の紅白の縞は、独立宣言当初の13州を表現している。白は清浄、赤は勇気、青は忍耐と正義を表すとされている。星は、現在の50州の数を表している。

中華人民共和国...大きな星は共産党を表し、四つの小さな星は、農民、労働者、知識階級、愛国的資本家が革命を支持し、団結する様子を象徴している。

大韓民国...中央の巴は赤が陽、青が陰を表し、四隅の占いの卦は、東西南北、老若男女など、対立しつつ調和している概念を表している。太極旗ともよばれる。

フィリピン...赤は勇気、青は高邁な政治目的、白は純潔と平和を表している。太陽は自由を、星は主要な3島を象徴している。

インドネシア...白は潔白、赤は勇気を表し、潔白の上に立つ勇気という意味をもつ。

参考資料

世界の主な国の継続的な指導について

主な国の名称と位置に関しては、日本とそれらの国の位置関係を確認させ、産業に関する学習などにおいて活用できるようにする。

なお、産業に関する学習において、世界の国々が出てきた場合は、地図帳や地球儀を活用して、国名や位置を常に確認するように指導する。その際に、出てきた国をマーカーなどで、白地図にしるしをつけることを習慣づけていくようにしたい。そのような活動をおこなう中で、日本とそれらの国々との地理的關係を身につけさせるようにしたい。

また、子どもの興味関心に応じて、朝の会などを利用して、ニュースなどで出てきた国を紹介し合う活動などを取り入れることも考えられる。

1 日本はどんな国

地図帳などを活用

本時の位置(4/4)

世界の海洋や大陸，日本の位置を調べる

子どもの追究活動	指導の工夫と教師の支援
<p>三海洋，六大陸を調べる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな海は，太平洋，大西洋，インド洋の三つがあるんだね。 ・ユーラシア大陸には，アジアとヨーロッパがあるんだね。 ・ほかに，北アメリカ大陸，南アメリカ大陸，オーストラリア大陸，アフリカ大陸があるね。 ・南極も大陸なんだね。 	<p>地球儀で，大洋や大陸を調べさせた後，白地図を配布し，三海洋，六大陸を記入させる。</p> <p>前時に調べた国々がどの大陸に属しているのかなどを確認させるようにする。</p>
<p>地球儀を使って，方位と距離の調べ方を知り，主な国と日本の位置を方位と距離で表す。</p> <p>方位の調べ方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカは，日本の東ではなく，北東にある。 ・日本の東は，南アメリカ大陸になる。 <p>距離の調べ方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本とアメリカは，およそ約 8000km はなれている。 	<p>教科書 p.11 の「方位ときよりの調べ方」を参考に，地球儀を使って，方位と距離の調べ方を知る。</p> <p>ミラー図法のように平面地図では，アメリカは日本の東のほうに位置しているように見えるが，実際は北東にあたり，その違いに気づかせたい。</p>
<p>日本の位置について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本は北半球にある。 ・北緯 20 度から 45 度，東西はおよそ東経 122 度から 153 度までに広がっている。 ・ユーラシア大陸の東の方にある。 ・太平洋と日本海に囲まれている。 ・南北につらなる大小の島々からなっている。 ・大韓民国，中華人民共和国，ロシア連邦ととなりあっている。 	<p>地球儀を見て，世界から見た日本の位置をとらえさせる。</p> <p>緯度や経度，まわりの国，大陸や海洋とのかかわりなど，これまでの学習をもとに，日本の位置を表すようにさせる。</p> <p>隣り合っているロシア連邦との間で，北方領土の問題があることを伝える。</p>
<p>北方領土の島々について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・択捉島，歯舞群島，色丹島，国後島からなっていて，第二次世界大戦後，ソ連(今のロシア)に占領された。 ・現在も日本とロシアで話し合いが続けられている。 	<p>日本が返還を求めて，ロシア連邦と話し合いを続けていることや，北方領土に住む人々との交流がおこなわれていることがわかる資料を提示する。</p>

本時のねらい

地球儀を使って、三海洋、六大陸を調べるとともに、我が国の地理的位置を理解することができる。

評価の視点

評価基準の具体例

【観察・技能・表現】

地球儀を使い、日本とほかの国の位置の関係を方位と距離でとらえると同時に、日本の地理的位置を表すことができる。

評価の対象と方法

二つの国の距離や位置関係については、たとえば、アメリカなど、教師から課題を与え、調べたことをノートに書かせる。また、日本の地理的位置もノートにかかせ、どのようなとらえ方をしているかを評価する。

子どもへの指導の手だて

「努力を要する」状況と判断した子どもへ

地球儀で、日本とほかの国の位置関係や距離をとらえることができない子どもには、参考資料の「地球儀の指導」にあるように、地球儀に四方位を貼り付ける方法や、ひもの距離尺を使わせるなど、個別に指導・支援する。

「十分満足できる」状況と判断した子どもへ

地球儀で、日本とほかの国の位置関係や距離をとらえることができた子どもには、さらに平面地図で調べさせて、地球儀とは大きな違いがあることに気づかせ、平面地図の種類やその特性について調べるようにさせる。

参考資料

地球儀の指導

曲面を平面にしなければならないという制約のある地図に比べ、地球儀は、大きさが小さいという1点を除いて、地理的諸関係はほぼ満たされている。ここでは、方位と距離の調べ活動をおこなうようにする。

方位

1. 貼ってはがせるテープを5cm程度に2本切る。
2. 直交するように、のりで貼り合わせる。
3. 直交の中心に、サインペンで印をつける
4. 十字の先に、東西南北を書き込む。
5. 基準になる場所に、中心の印をあわせ、南北を書き込んだテープが経線に平行になるように地球儀に貼る。そして、基準になる場所と知りたい場所をひもで結び、十字のテープから方位を読み取る。

距離

地球儀の大きさにあった距離尺をつくる。

1. ひもを、赤道にそって1周させる。
 2. 赤道の全長は、ほぼ4万kmであるので、20等分し、印をつける。
 3. 一つが目盛りが、2000kmである。
- つくった「方位をしめしたテープ」と「距離尺となるひも」を袋に入れ、それぞれの地球儀の台の部分にくくりつけておき、いつでも使えるようにしておく。